

2026年5月22日

各位

会社名 株式会社安川電機  
代表者名 代表取締役社長 小川 昌寛  
(コード：6506、東証プライム、福証)  
問合せ先 上席執行役員 コーポレートブランディング本部長 林田 歩  
(TEL.093-588-3076)

## 新長期経営計画「2035年ビジョン」および新中期経営計画「Dash 35」の策定について

当社は、長期経営計画「2035年ビジョン」(2026年度～2035年度)および最初の4年間にあたる中期経営計画「Dash 35」(2026年度～2029年度)をスタートさせましたので、お知らせいたします。

### 1.長期経営計画「2035年ビジョン」の概要

当社グループは創業以来110年の間、モータとその応用を事業領域として貫き、モーションコントロール、パワー変換、そしてロボット技術を高めてきました。これからも世界一、世界初にこだわり私たちのDNAであるメカトロニクスの領域のさらなる拡大に向けて力強く前進していきます。「2035年ビジョン」では当社グループのソリューションコンセプトである“i<sup>3</sup>-Mechatronics(アイキューブ メカトロニクス)”(※1)を軸に、自動化ソリューションの価値をより高めながら、AIやデータを活用したフィジカルAIの社会実装を進めることで、コア領域の競争力強化に取り組みます。また新メカトロニクスの応用領域拡大とフィジカルAIにおける市場開拓と需要獲得に挑戦していきます。

さらには、安川グループ経営理念の理解深化を加速させながら、ソリューションコンセプト i<sup>3</sup>-Mechatronics をAIによってさらに進化させるとともに、データによる経営の最適化、ものづくりの革新、現場(社会)への実装を実現する新たな世界“i<sup>3</sup>-Singularity(アイキューブ シングularity)”(※2)を広げていきます。

#### (1)財務目標

当社グループは、長期経営計画「2035年ビジョン」において、営業利益率を最も重要な経営指標と位置づけ、ステークホルダーへの還元の充実を重視しています。具体的には、2035年度の目標として営業利益率20.0%以上、配当性向40.0%以上を掲げています。

## (2)事業戦略

### ①コア領域の競争力強化

AI×データ活用によりモノ・モノづくりを進化させ、未来のスマートファクトリを実現します。

### ②新メカトロニクス応用領域の拡大

多様なパートナーとのエコシステム構築を通じて新メカトロニクス応用領域を拡大するとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### ③フィジカル AI(※3)市場の拡大

基幹コンポーネントのポートフォリオ拡大でフィジカル AI の社会実装を実現します。

### ④経営基盤の強化

AI 利活用による YDX(※4)の深化と経営基盤の強化を通じて安川グループの戦略実行力の最大化を図ります。

## 2.中期経営計画「Dash 35」の概要

当社グループは「Dash 35」において、売上収益、営業利益および営業利益率を主要な経営指標とし、過去最高となる 1,000 億円の営業利益を目指しております。「Dash 35」では、コア領域の徹底した高収益化とフィジカル AI 技術による新市場を創出し、「2035 年ビジョン」の達成に向けて推進します。

### (1)財務目標

|                 | 2025 年度<br>(実績)  | 2029 年度<br>(目標)     |
|-----------------|------------------|---------------------|
| 売上収益            | 5,421 億円         | 6,500 億円            |
| 営業利益<br>(営業利益率) | 473 億円<br>(8.7%) | 1,000 億円<br>(15.4%) |
| ROE             | 7.7%             | 12.0%以上             |
| ROIC            | 6.9%             | 11.0%以上             |
| 配当性向            | 50.0%            | 40.0%以上             |

[参考]

2025 年度実績為替レート 149.87 円/米ドル、172.76 円/ユーロ、21.01 円/元、0.105 円/ウォン  
2029 年度想定為替レート 145.00 円/米ドル、170.00 円/ユーロ、20.50 円/元、0.105 円/ウォン

## (2)基本方針

### ①基本方針 1 フィジカル AI 市場の開拓

フィジカル AI 市場を開拓し、自動化領域を拡大するとともに、ロボットソリューションを軸とした基幹部品ラインナップの強化を通じて、フィジカル AI 市場における競争優位の確立を目指します。具体的には、AI 活用による自律型 AI ロボット「MOTOMAN NEXT」の適用領域拡大を進めるとともに、進化型アクチュエータをはじめとする基幹部品を通じて、ヒューマノイドロボットを含む多様なフィジカル AI 市場の開拓に取り組みます。また AI 技術およびパートナーとの連携を通じてこれまで自動化が困難であった領域への展開を推進します。

### ②基本方針 2 i<sup>3</sup>-Mechatronics の実践拡大

蓄積してきたソリューション活用とスケールメリットを通じてお客さまの競争力向上に貢献するとともに、地域別に特長を生かした展開を加速します。あわせて、i<sup>3</sup>-Mechatronics をお客さまと共に実践拡大することで、当社グループの競争力強化を図ります。

### ③基本方針 3 世界一にこだわる新製品開発

コア技術、現場データと AI 活用のシナジーを通じて世界一の技術創出を目指します。

### ④基本方針 4 新メカトロニクス応用領域の事業拡大

メカトロニクス技術の応用およびパートナー連携を通じて自動化領域の拡大を図ります。具体的には国内の農業分野における課題を自動化ソリューションにより解決するとともに、医療現場における各種実験の自動化・デジタル化を推進します。

### ⑤基本方針 5 YDX の進化と i<sup>3</sup>-Singularity

YDX を通じて経営全体の最適化を進め、世界で選ばれる製品・サービスを持続的に生み出す事業構造への変革を図ります。さらに i<sup>3</sup>-Mechatronics に AI を組み合わせることで新たな世界 (i<sup>3</sup>-Singularity) を広げていきます。

「2035 年ビジョン」「Dash 35」の詳細は、以下の URL からご覧いただくことができます。

・2035 年ビジョン : <https://www.yaskawa.co.jp/wp-content/uploads/2026/05/Vision2035.pdf>

・Dash 35 : <https://www.yaskawa.co.jp/wp-content/uploads/2026/05/Dash35.pdf>

以上

※1 i<sup>3</sup>-Mechatronics : 当社が 1969 年に提唱した「メカトロニクス(メカニズムとエレクトロニクスを融合した造語)」に 3 つの“i”(integrated:統合的、intelligent:知能的、innovative:革新的)を重ね合わせ、お客さまの経営課題の解決に寄与するソリューションコンセプト。

- ※2 i<sup>3</sup>-Singularity : これまで取り組んできた i<sup>3</sup>-Mechatronics に AI を組み合わせることで、その実行力を拡張・飛躍させていく考え方。
- ※3 フィジカル AI : 当社製品と AI を融合させることで、これまで自動化が困難であった領域におけるユースケースを具現化するものと位置付け。その実現にあたり、当社では「AI ロボティクス」を「モーションと AI による認識・判断」と定義し、これは i<sup>3</sup>-Mechatronics の “integrated(統合的)” 領域をさらに広げる考え方。MOTOMAN NEXT は、この AI ロボティクスの考え方を具現化した製品。
- ※4 YDX : YASKAWA Digital Transformation の略。第1フェーズである「YDX-I」では、データ一元化業務改革および経営の見える化を実施。「YDX- II」では、製品・サービス視点でのお客さまへの価値創出を実施。